地域の安全のために『一致団結！』

DAN!!

宮崎県消防団だより「ダン!!」

[Vol.15]
2020.3 “March”

防災ヘリ・自衛隊・海保・消防団が連携強化

串間市総合防災訓練

串間市総合防災訓練の様子

地域防災に女性の力がさらにプラス

女性団員、ますます活躍中!!

今回は新人団員を紹介します！

我ら、消防団員

消防防災関連情報!!

宮崎県防災・危機管理情報のホームページ
https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kiki-kikikanri/kurashi/bosai/bosai_kikikanri_joho.html

総務省消防庁のホームページ
https://www.fdma.go.jp/

傷病者搬送をする防災救急航空隊員と消防団員

防災ヘリ・自衛隊・海上保安庁・消防団が連携強化

串間市総合防災訓練

令和元年11月17日（日）、串間市都井地区の立宇津緑地公園で、南海トラフ巨大地震を想定した訓練（串間市主催）が行われました。

訓練は、『11月14日（木）、南海トラフ地震が発生し、震度6強の地震と大津波警報が都井地区に発令された。道路は、土砂崩れで通行止めとなり、復旧には時間がかかるため、都井地区は完全に孤立状態。地震発生から3日経過後に、関係機関が同公園に現地災害対策本部を設置し、住民の避難および、救出・救助を開始する』という想定で行われました。

訓練に参加した串間市消防団都井分団の団員らは、専門機関のサポートとして、物資の受取りや傷病者の搬送などを行いました。

関係機関の連携をひと目見ようと、会場には多くの住民が集まり、防災への意識を高めていました。

とても勉強になりました。
これからも都井の
安全を守ります！

串間市消防団
都井分団 第３部
藤原 貞幸さん（左）
中原 健一さん（右）

串間市消防団都井分団

孤立住民を海上輸送する様子（巡視艇さつき）

訓練の様子を動画でどうぞ→

訓練の内容

避難者輸送

同市宮之浦地区から、住民を陸路で現地対策本部へ輸送。会場近くの立宇津漁港では、海上保安庁の巡視船により、孤立化した都井地区の住民を輸送。

防災救急ヘリ「あおぞら」との連携訓練

孤立集落から「あおぞら」を使い住民を輸送。また、対策本部からの要請で、支援物資を投下。消防団員が物資を受け取り、対策本部に運搬。

倒壊家屋行方不明者捜索・救出訓練

家屋が倒壊した現場で、陸上自衛隊員が行方不明者を捜索。家屋から救出を行い、消防団員が担架を使って現場から搬送。

道路啓開訓練

土砂崩れにより被災した車両が発見されたため、陸上自衛隊ががれきを撤去。消防隊が車両から負傷者を救出し、救急車で搬送。

炊き出し

当日は、航空自衛隊と陸上自衛隊、日本赤十字社宮崎県支部串間市地区の方々が協力し、自衛隊の炊事車を使って炊き出し。

会場には関係機関と地域住民が足を運んだ

県防災ヘリ「あおぞら」による上空からの情報収集

ヘリで輸送された物資を受け取る消防団員

串間市消防団都井分団
分団長
上田 郁男さん

今回のように地区住民と一緒になった訓練を行うことで、いざというときに避難することがいかに重要かを伝えることができる良い機会となりました。また、消防関係者や自衛隊、海上保安庁の隊員が実際に活動する姿を間近で見てもらうことで防災意識をさらに高めることにつながったと思います。

ますます活躍中!!

小林市女性消防団が全国女性消防操法大会に出場！

令和元年11月13日に横浜市で行われた『第24回全国女性消防操法大会』に、小林市女性消防団が宮崎県代表として出場しました。この日のために約1年前から訓練を重ねてきただけあって、大会では、団員同士の連携も素晴らしく、大きなミスもなく訓練の成果を発揮することができました。

現在、8名の団員が所属する小林市女性消防団は、保育園などで火災予防啓発の紙芝居や寸劇を行うほか、操法大会・式典の運営補助などの活動を行っています。

部長に聞きました！

小林市消防団女性部
部長
坂之下 由紀子さん

今回の出場にあたって、たくさんの方にサポートしていただいたおかげで、全国という大舞台で自分たちの操法を披露することができました。私たちは普段から部内の「和」を大事に活動をしていますが、今回の大会やそれまでの訓練を通して、団員同士の絆が深まったと感じています。今後は、活動の幅を増やしていくためにも、まずは女性部の認知度を上げて、団員を増やす取組をしていきたいと思います。

東児湯地区で女性消防団員連携会議が発足

災害に備えて地域同士の結束力を高めようと高鍋・新富・木城・川南・都農の東児湯地区5町の消防団員で構成する県消防協会東児湯支部に、女性消防団員連携会議が発足しました。

同会議では、町の枠組みを越えた活動や研修を連携して実施することで、女性ならではの目線を生かした対応や取組を行うことを目的に活動します。同5町の女性消防団員は、高鍋町5人、新富町5人、木城町4人、川南町8人、都農町8人の計30人で、年に1、2回、研修や会合を開催する予定です。

また、同日は「セーフティ・ファーストエイド研修」として、専門の講師を招いて、応急救護の講習も行われました。

木城町消防団女性部
長濱 優さん

今までの木城町女性消団員数では、訓練や活動内容も限られていましたが、今回の『女性消防団連携会議』の発足により、セーフティ・ファーストエイド研修を実施することができました。「連携」することで、顔の見える関係、町をまたいだ横のつながりが強化でき、広域的に活動できると思います。また、情報交換や研修を通して各町・支部のスキルアップにもつなげていけると期待しています。今後は東児湯支部で連携し活動していきたいです。

セーフティ・ファーストエイド研修の様子

地域防災に女性の力が
さらにプラス

女性団員、

県内各地で活躍する女性団員の姿をお届けします。

第６回宮崎県女性消防団員活性化日向大会が行われました！

令和2年1月25日、日向市中央公民館で第6回宮崎県女性消防団員活性化日向大会が開催されました。

県内の女性消防団員が一堂に会し、日頃の活動やその成果をアピールするとともに、意見交換会や交流を通じて連携を深めることにより、本県女性消防団員の活動をより一層活性化させることを目的として、毎年開催されています。今年度の大会では、県中代表を木城町、県南代表をえびの市、県北代表を日向市消防団が務め、それぞれの活動報告を行いました。大会終了後は情報交流会が開かれ、女性団員たちは、普段なかなか接する機会のない各地の団員たちと親睦を深めました。

活　動　報　告

県中代表

木城町女性消防団
『東児湯女性消防団員連携会議について』

県南代表

えびの市女性消防団
『レッドホークの女性隊員の活動』

県北代表

日向市女性消防団
『年間を通しての活動状況』

お世話になっている地域に恩返ししていきたい

MRTの天気予報でおなじみの野田さんは、宮崎市で毎年夏に行われている「大淀河畔たまゆら祭り」の実行委員も務めており、消防団員でもあるほかの実行委員メンバーに誘われ入団しました。

「気象予報士という仕事柄、いざというときほど本業を優先せざるを得ないので、入団を迷っていましたが、できる範囲で活動に参加させてもらっています。

私も防災に関わる仕事をしていますが、消防団は、地域の防災に直接携われることが魅力だと思います」と笑顔で答える野田さん。昨年の春に入団し、夏の操法大会での他分団の応援や合同訓練、出初式、夜警活動などに参加しています。「新入団員訓練をまだ受けられていないので、規律の動作が求められる場面では、前の人の動きだけが頼りでした（笑）」。

ニュース番組などに加え、ラジオ番組でも活躍しています

20名ほどの団員が在籍する中央分団第1部は、20～60代の幅広い年齢で構成されていて、部内の雰囲気も良いと野田さんは話します。「宮崎に来て18年目になるんですけど、地域の歴史や地元の方だからこそ知る情報を教えてもらえることは楽しみの一つです」。

まずは規律をマスターすることが当面の目標だと話す野田さん。「部内で気象に関する講習を行ったり、緊急時は情報を共有するなど気象予報士のスキルをうまく生かしていきたいですね。あと、消防団の活動を通して、お世話になっている地域に恩返しができたらいいなと思います」。

宮崎市消防団
中央分団 第1部
野田 俊一郎さん

女性部に加入したことで自信にもつながった

現在、宮崎大学4年生の日高さんが宮崎市消防団女性分団に加入したのは、3年前のこと。同大のサークルである『学生消防隊』としても活動する中で、同分団について知ったことが入団のきっかけです。「消防団というと、男性がやることというイメージを持っていましたが、それまで知らなかった女性の活動に興味が湧いて、入団を決めました」。

学生消防隊で取り組んできたことは、「オレンジフラッグ」の普及活動です。オレンジフラッグとは、津波が予想される地震が起きた際に、海岸にいる人に向けて地震の発生と避難を促すための目印となるオレンジ色の大きな旗のことで、宮崎市内では青島にある「渚の交番」などで導入されています。そのほかにも、屋内消火栓操法大会や宮崎市主催の避難訓練にも参加しています。

一昨年、学生消防隊で参加した宮崎地区屋内操法大会では優勝を果たした

一方、女性分団では、応急手当普及員として、公民館や学校で、AEDの使い方や胸骨圧迫を教えたりするほか、式典の運営補助や訓練時は、炊き出しに加えて、規律訓練も行っています。「サークルと違って、女性分団は年齢層が広いので、いろんなことを教えてもらえて楽しいですね。応急手当普及員の資格を取れたことで自信もつきました」。

学生最後の年を迎えた日高さんにこれからの目標を聞くと、「学生消防隊、女性分団ともに、SNSを利用しながら活動を発信して、知名度を上げていきたいです。あと、目の前で人が倒れたりしたときは、率先して救護にあたります」と意気込みも十分です。

宮崎市消防団
女性分団 第6部
日高 美月さん

DAN!! TOPICS

高原町で緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練が開催

あおぞらの誘導訓練を行った都城市消防団

中継役を担った高原町消防団

令和元年11月9日・10日の2日間、「県南部山沿いを震源とする地震が発生し、高原町を中心に大きな被害が発生した」との想定で高原町総合運動公園をメイン会場として行われました。

同訓練には、宮崎県を含め、九州・沖縄各地から104の消防本部と、自衛隊、警察、DMATをはじめとする18団体に加え、高原町・小林市・えびの市・都城市・三股町から8団の消防団が参加。訓練のメインとなる消防機関や自衛隊、DMATが活動する中、消防団員は、高原町消防団が中継消火活動の中継役、都城市消防団が防災ヘリの誘導など、他機関との連携強化に向けた訓練に従事したほか、訓練の運営補助にも活躍しました。

1,686人の関係者が一堂に会した

「みやざき消防団の日」特別表彰

令和2年3月14日の「みやざき消防団の日」に合わせて行われた、優れた取組や地域への貢献などを称える県知事消防功労表彰に、優良消防団として宮崎市消防団、消防団協力優良事業所に都城農業協同組合が選ばれました。

また、防火ポスター図案コンクールでは、日南市鵜戸小中学校9年の根木天佑さんに、防火防災に関する作文コンクールでは、日向市立平岩小中学校7年の児玉達紀さんが、県消防協会長から優秀賞が贈られました。

宮崎市消防団

[選定理由] 南海トラフ地震などの大規模災害に備えるため、平成31年4月1日から、基本団員だけでは対応できない災害時に限定して出動する「大規模災害団員制度」を県内で最初に導入。九州内では3か所目で、今後の地域防災力の向上と、消防団員の増加が期待されることが評価された。

都城農業協同組合

[選定理由] 消防団員の就業時間中の緊急出動があった場合、特別休暇扱いとして出動への理解を示していることが大きく評価された。県内の消防団協力事業所の中でも、勤務する消防団員一人あたりの「勤務中における消防団活動実績」における活動時間は群を抜いている。（写真左が同組合代表理事組合長 久保順一さん）

消防団だより「DAN!!」は紙だけではない！

電子ブックはもちろん。さらに読みやすくパワーアップ!!

紙＆電子版：消防団だより「DAN!!」特集ページ

WEB記事へ!!

WEB版：消防団だより「DAN!!」特集ページ

過去のアーカイブも
WEB記事として閲覧可能です

インタビュー動画もあります

WEBやスマホでは縦スクロールの方が断然、読みやすい！

消防DAN　検索

消防団だより「DAN!!」特設サイトへ
スマホやタブレットはこちらから。

求ム、消防団員！

宮崎県には、14,439人（平成31年４月１日現在）の消防団員が、それぞれの職業を持ちながら、火災・地震・風水害から住民の生命と財産を守るためがんばっています。あなたも、消防団員として活動しませんか？詳しくは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

小林市消防団
女性部
岩切 亜委さん

女性の団員も増えています！

一人暮らしの高齢者宅を訪問しての防火点検や子どもを対象にした防災教室のほか、人工呼吸や応急手当の普及指導など、細やかな視点を活かしての防災啓発などを行っています。

この5年間で
35%増!!

消防団活動には
女性のチカラが欠かせません！

平成31年
407名

平成26年
303名

（平成31年4月1日現在）

消防団の活動がわかる動画を配信しています!!

消防団の活動をわかりやすくまとめたアニメーション動画を Youtubeで配信中！　ぜひ、上の QRコードからご覧ください。

地域の安全のために『一致団結！』

DAN!!

宮崎県消防団だより「ダン!!」

[Vol.15]

令和2年3月発行

[発行]
宮崎県総務部 危機管理局 消防保安課
〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号
TEL0985-26-7627 / FAX0985-26-7304

[企画編集・デザイン・印刷]
株式会社 宮崎南印刷
〒880-0911 宮崎市大字田吉350番1号
TEL0985-51-2745 / FAX0985-52-2682

日本のひなた宮崎県